

お寺に行こう!

今年も盛りだくさんの行事行われる



家族そろってファミリー参拝へ (24.7.14)



発行所
岡谷市郷田一丁目6番3号
TEL(0266)22-2524
金松山 敬念寺
発行
敬念寺門信徒会
編集
会報組織委員会

朝7時はみ仏さまや
彼(か)の人との
出会(であ)いの時間

小僧の目

▼報恩講がどのような法要であるかはつきりしない人が沢山おられます▼ある教区がそのことでアンケートしたところ、報恩講とは「先祖のご恩を感じ、そのご恩に少しでも報いようと決意する法要」と答えられた人が一番多く「親鸞さまの生まれた日を祝う法要」「一家そろって無事一年を送れたことに感謝する法要」など、お盆などの法要と混同する答えが多かったようです▼「小僧の目」はこのたび、子供にもわかる報恩講の意味を考え、お伝えすることにしました▼報恩講は私たち宗派を開かれた親鸞聖人さまのお命日に、各お寺でおつとめする一番大切な法要です▼親鸞さまは比叡山で二十年もの長い間、仏教の勉強をなされ、二十九歳で山を降りてお念仏の教えを喜ばれるようになりました。▼それから九十歳で亡くなるまで、ある時はお念仏に反対する人達に流し者にされたりして大変なご苦労をされました。それにも負けず、正しい仏さまの教えを説き、いろいろな本をお作りになり、人々に伝えて下さいました▼そのおかげで私たちは尊い仏さまの教え、お念仏の教えがよくわかるようになりました▼私たちの先輩はこのご恩を思って、親鸞さまのお命日に仏さまの教えを聞かせていただき、更に、「一層お念仏を喜ぶ人になりましょう、そうすれば親鸞さまもきっと喜んで下さるに違いない」と考えて、聖人のお命日を報恩講と名づけて大切におつとめしてきたのです▼敬念寺でもご案内のとおり、十一月十一日報恩講をおつとめいたします▼今からご予約いただき、多くの皆さまのお詣り、ご参加をお待ちしております。

釋 玄真

ご寺院行事

- 11月11日(日) 報恩講法要 前10:00
- 1月1日(火) 元旦会(法要) 前7:00
- 1月16日(水) 御正当法要 前10:00
- 3月20日(水) 春の彼岸法要 前10:00
(講師 未定)

ご定例法話会

- 11月20日(火) 講師 佐々木教幸先生(福井県)
- 12月20日(木) 講師 幡多 哲也先生(兵庫県)
- 1月20日(日) 講師 木賣 慈教先生(長野市)
- 2月20日(水) 講師 三寄 靈証先生(福井県)

いずれも毎月20日 夜7:00からです。
3月のみ春彼岸で日中10:00です。

お寺に親しむ子供達

第二十九回ファミリー参拝が七月十四日(土)に行われました。今年も、若者に参加を呼び掛けた企画・運営が特色でした。次回以降若者の力が大きなうねりになって行くことを願うものです。

本堂では、代表の子どもが献灯・献華を行った後、讃仏偈を朗読しお勤め。引き続き、住職と若院からお話しをいただきました。境内では恒例の流しソーメンをはじめ、綿あめ、ポップコーンや、昨年に続き、かき氷も用意され、いずれも大好評。また子供達は輪投げ、じゃんけん大会でも楽しいひと時を過ごしました。



讃仏偈でおつとめ



婦人部の皆さんがおもてなし



毎年大人気の流しソーめん

第三十三回を迎えた早朝連続参拝に 延べ六百十人参加

第三十三回目となる早朝連続参拝が八月一日から十日間行われ、延べ六百十人が参加。新しい顔ぶれも多くあり、皆さん熱心にお勤めされました。(皆勤者三十九人)

今年も、メイン講師を若院にお願いし、「ご和讃の味わい・パートⅡ」として「和讃・五十六億七千万」を分かりやすく解説していただきました。また、初日はご住職から、聖人がご和讃をまとめられた時代背景など、導入的なご法話を、最終日にはまとめたご法話を聴聞させていただきました。昨

年に続き、親鸞聖人が漢文のみ教えを、仮名交じりで分かりやすく説かれたご和讃についての味わいが更に深まり、参加者一同充実感があふれた連続参拝となりました。

五日目の日曜日は、昨年に続き赤川浄友先生から「お寺はシエルトー」と題した法話を聴聞させていただきました。

「笑い療法士」でもある講師の赤川先生は「真宗の信心」について、卒業証書をもらった子どもが、自分の努力で卒業となった証の卒業証書が、実は「お蔭さま」と気づいて新聞に投稿した、感動

的な作文を披露しながら、わかりやすくお話しされました。ユーモアを織り交ぜながらのお話しに参拝者一同笑いに誘われつつも、深い味わいを聴聞させていただきました。

また、初日には大洞会長からも挨拶とお話しがありました。会長は、昭和五十四年に壮年部の教化活動から始まった早朝連続参拝が三十三回を重ねてこられたのも、門信徒の皆さんの篤いお心と、お寺様・親鸞聖人様のお導きのお蔭様と挨拶されました。

今回講話の発表はありませんでしたが、お勤めの最後に、「浄土真宗の救いの喜び」(前号参照)を全員で拝読し味わいを深めました。



講師の赤川浄友先生(24.8.5)

第一回 敬念寺早朝公開講座開催!

「生きたい」と「死にたい」との間で

藤澤克己先生

「敬念寺早朝公開講座」が九月一日門信徒を始め多くの市民が聴講する中、表題のテーマで開催されました。これは、お寺から社会に発信していく初の試みとして企画されたものです。講演の概要を掲載させていただきます。

(文責 会報組織委員会)

今や日本における「自死」は十四年間連続で三万人を超えているという実態である。その当事者から教えられたことは、「死にたくて自死する」人は居ない。自分の力ではどうしようもなく、生きていくのがつらい……。

また、自死者の遺族は、社会の偏見、「なんで？」という自責の念や、大人達の「このままでよいのか？」という連帯責任などで悩み「安心して悲しむ」ことができない。

では、どのように関わればよいのか。関心を持ち、感情に寄り添い一緒に考えてあげること……。お互い様なのです。(愛の反対は無関心であるIIマザーテレサ)

相手の感情を否定せず、そのまま「たいへんだったね」と受け止めてあげること。

「安心して悩むことの出来る社会」となり、生き活きと暮らし自

死する人が減ってほしいと、熱くお話し下さいました。

普段あまり取り上げられることのないテーマですが、聴講者の心に響いた講演となりました。

私たちは「御同朋」であり、他人事ではありません。「明日は我が身」と思い「安心して悩むことができる社会」を目指していきたいと思いました。



熱心に聴講する皆さん(24.9.1)

しょう しき
青 色
しょう こう
青 光
五十六回

み仏の恵みに感謝の日ぐらし

佐々木 澄子 さん
岡谷市天竜町



まず、佐々木家と敬念寺との縁をご紹介します。先代のお舅様は大変信心深く、岡谷の地に初代金松三直住職が説教所(お寺)を設けることにいち早く共鳴され、仲間と共に先頭に立って、かつてのキネマ付近に開設し今日の敬念寺があるとのことでした。

とも大変だが、病む者の気持ちはもっと辛かったことだろう。」と感じ、また大きな災難に遭われた際は、多くの方々に声をかけていただき、「人の温かさで私は生かされてきた」とおっしゃいます。

さて、今回佐々木澄子さんをお訪ねしましたが、やさしい笑顔で迎えていただきました。長年に渡りご主人のご両親を介護され、その都度感謝の言葉をかけてもらいました。が、「介護するこ

どんな苦勞も乗り越えられたのは、多くの方々の助けを頂いたおかげであり、「人の情けは人を立ち上げさせる力があるのだ」と私は思います。」と語る澄子さんです。子供や会社を守り家族と共に生きる事が精いっぱい、お寺様に足を運ぶことも少なかったとおっしゃいますが、二代目の敬念寺婦人部長として活躍されました。懸命に生かされて生きてこられた姿こそ、親鸞様のお示しくださっている「お念仏を頂いて生きる道」であると思えました。

(滝川 記)

印象に残った葬儀や法事での挨拶

その一

今年五月十一日松井豁さんの奥様、美里さんが七十三歳でお亡くなりになりました。葬儀には、あいにくご主人が交通事故で入院中だったため、豁さんの奥様への思いを二女のお婿さんが代読されました。

湖畔 松井 豁
(代読 木名瀬 博)

妻は、一家の長女として周囲から愛され、また家族のためによく働いてくれました。

終戦後、母と四人の弟妹と実家に戻り、自然に抱かれながら健やかに育ちました。小学校の時はピアノに親しみ、周囲をうらやましがせるほど、自身で楽しみながら成長しました。高校は当時大変な時間をかけて、母親と同じ伊那弥生ヶ丘高校へ通学しました。卒業後は、東京にある富士通本社に入社し、皇居周辺で実りある楽しい時を過ごしました。丁度皇太子・美智子様御結婚の頃です。

嫁いでは年寄りの中で苦勞したと思いますが、よく耐えてくれました。二人の子供を、見てもらえば分かるように、立派に育ててくれました。

私は当時仕事本位で家を空けることが多かったですが、年寄りと子供の面倒をしつかりと看てくれて、とてもありがたかったです。

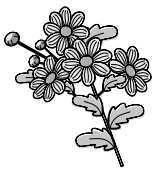
また、私が仕事で思い悩んでいる時はいつも相談のつてくれ、女性とは思えないはつきりとした方向性を示してくれました。自分の信念を貫く人でした。

子供が巣立ってからは、自分の夢だった店を出し、本当にうれしそうでした。私も退職後裏方仕事を手伝えましたが、一緒に時間を共有でき、別世界を学べ楽しかったです。

晩年は体調がすぐれませんでした。いつも自分の事より娘家族や孫の事を気にかけていました。

ベッドの上で、長女として母の面倒を看足りなかつたことや、幼少期の楽しかつた時のことを話してくれました。とても利口で的確な判断力をもって家を築き上げてくれたと思っています。

今まで本当にありがとう。皆が感謝しているよ。



その二

昨年八月十二日、八十九歳で森本志ずゑさんが逝去され、今年八月十日一周忌の法要をお寺でつとめられました。終了後、娘・千恵さんのお礼の挨拶

成田町 森本 千恵

この一年間、皆様には何かとお氣遣い頂き誠にありがとうございました。早いもので、母亡きあと毎日が父の介護に明け暮れ、母を偲ぶ余裕もなく慌ただしく過ぎた一年でした。お蔭様と言つてはなんですが、昨年末に父の特別老人養護施設への入所が決まり、ようやく少し落ち着きのある生活に戻りました。ここ数年は母の言葉に耳を傾ける余裕がありませんでしたが、今こうして少し心にゆとりがもてるようになり、母の人生について考えることが出来るようになりました。しかし、私、子供にとりまして母は、母親以上でも母親以下でもない存在で、母親としての生きようは見えてきませんが、一人の女性として人間として、どんな夢やどんな時代を、何を思い過ごしてきたか何も知らないことに気がきました。

家族は、人生において一番身近な存在ですが、果たして一人ひとりについてどれくらい、それぞれ思いや心のありようを理解しているのだろうか、ふと思つてしまいます。

母とも、認知症になる前に母の心の思いや言葉にもっと耳を傾けておけばよかつたと、今更ながら思つてしまいます。最後に行つてみたかつた場所や、会いたかつた人がいたのではなかつたかと、ふと思いを巡らすこのごろです。

また、母が晩年つぶやいていた言葉や行動の一つ一つが、今自分の身に重なつてきて、ああ、なるほどこうゆう事なのだ、老いて行く道すじを体感している自分があります。親とは有難いもので、子供たちに、これから行き着くであろう世界を身によって示してくられていたのだと、つくづく思い知らされております。

介護の現場は、ある種の戦場です。介護される方もする方も戦士のようなもので、母が亡くなる際には、心から「お疲れさま。もう頑張らなくていいよ」と伝えましたが、子供として親にありがとうの言葉をかけてないことに気づきました。改めてこの場を借りて、母に、「長い間家族のために尽くしてくれて本当にありがとう。」の言葉を贈りたいと思います。

紙上法話

「おかげさま」の正体

金松 玄

「人生は、おかげさまと喜び、ありがとうと生きぬく道である。」

これは、以前、寺の公用封筒の全てに印刷してあった言葉です。

「おかげ」は蔭に接頭語をつけて御蔭、更に下に「さま」をつけて「おかげさま」と大人から子供まで、これほど日常生活に慣れ親しんで、これほど日常生活に慣れ親しんで、この言葉の持つ正しい意味を心得て使っているかという怪しい。

最近ある奥様から、「私の弟は肺気腫で、今とても苦しい病院生活をしております。いつでもどこにでも酸素ボンベを持ち歩かなくてはならず、呼吸するのが大変苦しそうで、そんな姿を見ると私は何も意識せず呼吸が出来、この歳になるまで大きな病気一つしないのは『ありがたい、仏さまのおかげさま』だと思っております。」というお手紙をいただきました。

よく見聞きするお話ですが、ここでいう「おかげさま」という使い方方を少し考えてみました。身近な人の姿を見て、自分が健康であること、楽に呼吸できることが直

接に「仏さまのおかげ」であると考えるのは早計すぎるのではないかと思います。もし、健康にして下さっているのが仏さまであるのなら、病気にしたのも仏さまの働きであるということになってしまいます。健康であるのは両親から健康である身体をいただいた、自分も健康に注意してきた、あるいは空気のよい所で長年暮らしてきたなど、様々な要素が重なり合っ

て、今あなたが健康に暮らさせていた、だいたいと思うのです。私たちは、自分の都合のよいことであると「おかげさま」と喜び、いやなこと、辛いことに出会うと「神も仏あるものか」と切り捨ててしまいます。自分勝手な自己中心の心をお互いに持ち合わせ、健康を含め、誰しもが幸せになりたいと願い、欲望のままに生活しているのが私たちの本当の姿であります。欲望の尽きることはない世の中であって、その欲望の充足感により、幸せが計られ「より楽しく、より快適に、より裕福に」を求めつづけています。

このような考え方の中では、病気が、健康か」に始まり「得か、損か」「役に立つか、立たないか」「若い、年老いているか」「五体満足か、そうでないか」「長生きか、早死にか」という相対的な

考え方が中心になり、後者の方は、全て不幸と切り捨てられるという生き方になり「病気になるたら不幸だ」「死んだら不幸だ」という価値観の中に生活するということになり得ます。

しかし、現実にはどんな人生を送ろうとも歳を取り、病気に罹り、やがて死んでいくのであります。このように時に私たちは人間の本来の姿を見抜き、私自身だけの欲望を超えた、都合のよい悪いを超えた世界から働いていくべき働きがあることに気づくことが大切であります。

調子の良い時、健康の時だけ「おかげさま」と言うのではなく、苦しい時も、寂しい時も、悲しい時も、病気の時もそれが与えられたご縁、「おかげさま」だと受け止めて生きることが大切です。

この手紙の奥様が当たり前に呼吸のできることを「有難い」と感じられた心は尊いことで、弟さんと比べるのではなく、これまで当たり前前としか受けとらなかつたご自身が、今まで当たり前であったことも有難いことなのだ、弟さんの病気を縁に知らせていただいたのであれば、その喜びはそ

合掌させていただきたく重い重いご縁であったのではないかと、味あわせていただいたことでもあります。



早朝連続参拝最終日に記念品をいただく(8.10)

平成二十五年 年回忌(法事)表

一	周忌	平成二十四年
三	回忌	平成二十三年
七	回忌	平成十九年
十三	回忌	平成十三年
十七	回忌	平成九年
二十三	回忌	平成三年
二十五	回忌	平成元年
二十七	回忌	昭和六十二年
三十三	回忌	昭和五十六年
三十七	回忌	昭和五十二年
五十	回忌	昭和三十九年

法事の日時は早めにお寺に相談し予定しましょう。

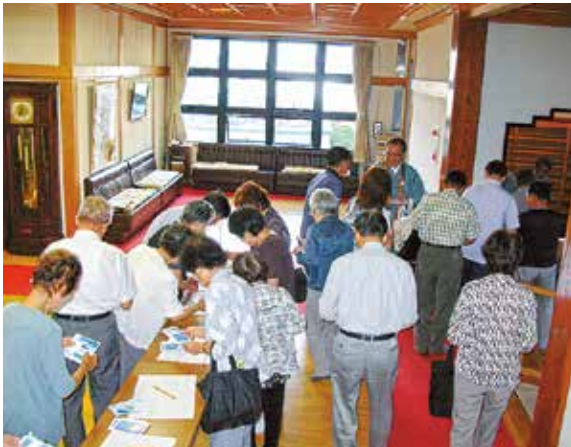


お寺東側に完成した第3駐車場（正面は敬念寺）

—お知らせ—

第三駐車場が完成！

このたび、お寺東側に第三駐車場が出来ました。お寺に隣接している土地ですが家が取り壊され、空き地になったことから、駐車場の適地として確保されました。十四台分の区画がロープで表示されています。葬儀等の参列者で、第一・第二駐車場の満車が想定される場合、ご遺族等関係者の駐車場所としてご利用いただくなどを予定しています。都度、お寺様からのご案内に従ってください。



早朝連続参拝の帰りにご講師の赤川浄友先生から絵葉書をいただく皆さん（下はその葉書）



赤川 浄友 <http://www.jovv-otagawa.com/>

平成二十四年度 報恩講法要のご案内

—今年最後の法要です。おさそい合わせてお参り下さい—

◆日 時 平成二十四年十一月十一日（日）午前十時より

◆行事日程 （開始十分前には入堂ご着席ください。）

○受付 九時三十分～九時五十分

○報恩講法要 十時～十一時

○法話 十一時～十二時

講師 岐阜県関市 光圓寺住職

日野 安晃 先生

「いつでも どこでも 誰にでも」

○おとき（会食） 十二時～十三時

◆報恩講協賛 門信徒作品展・菊花・山野草展示他

トピックス！

断層調査行われる！

敬念寺裏には段差があります。ここには断層が走っており、このたび掘削調査が行われました。土の色が変わっており、地層の違い＝断層の様子が写真からわかります。



24.8.4撮影

編集後記

今年も教化活動として行事が行なわれ、多くの皆様がお寺へ足を運ばれました。

十一月十一日（日）には、浄土真宗の門信徒にとって大切な「報恩講」法要が行われます。阿弥陀如来の大きな慈悲に包まれた本願念仏の教えが、私たちの救われるただ一つの道であることを明らかにして下さった、親鸞聖人のご恩に感謝する「報恩講法要」に、多くの皆さまにご参加いただくようご案内いたします。

（白田 記）